

## 安達太良山山行報告書

(山域) 吾妻連峰 安達太良山

(コース) 12/24: あだたら高原スキー場～くろがね小屋～安達太良山～くろがね小屋  
12/25: くろがね小屋～あだたら高原スキー場

(日時) 12月24日(土曜日)～12月25日(日曜日)

(天候) 12/24: 晴れ(風強し)・12/25: 曇り・雪(風弱し)

(参加者) CL: 内堀(記録)・小宮山

(山行タイム)

12/24: スキー場 9:20～くろがね小屋 11:20/12:10～安達太良山 13:10～くろがね小屋 14:00

12/25: くろがね小屋 8:10～あだたら高原スキー場 9:45

(山行報告)

くろがね小屋のキャンセル待ちが出たため宿泊出来ることになり、急遽安達太良山行決行。

早朝出発して、自宅側のスタンドで拾って頂き、富里ICから大栄IC経由圏央道、常磐道・磐越道と進み、郡山JCTを経て二本松ICで降りて、一路、あだたら高原スキー場に向かう。途中、岳温泉を過ぎたあたりから道路に積雪があり、滑りながら上がって行き、何とかスキー場に到着した。スキー場での駐車は少なく、登山者の方々が目につく。去年より雪はあり、駐車場に昨日降ったと思われる雪が道路一面にあった。何とか雪がありそうと思い、準備を済ませ出発する。スキー場を迂回するように進み、馬車道(林道)を避け旧道(登山道)を進み、何回か馬車道を交差しながら登ると、勢至平標識に出る。途中、降った雪は登山道を全て覆うことは出来ず、残念ながら泥んこの登山道を歩く羽目となった。残念である。休憩も取らずそのまま進み、山を巻きながら進むと、くろがね小屋が出てくる。ここで、昼食と荷物をデポする。途中、勢至平分岐を過ぎると風が強く、かなりの風が吹いている。登山道は尾根でない為、風は直接受けない。山頂は如何ほど吹いているか心配になる。くろがね小屋で休憩中の方に確認した所、風はあるが山頂を行ったとの情報を入手して、山頂に向かうことを決める。昼食後、小屋を出てアイゼンを装着して出発する。勢至平過ぎた辺りから積雪は増え、30cm程度の積雪であった。今年もワカンの出番はなく、無用の長物となってしまった。致し方ない。

昼食後、急速に風が弱まり、峰の辻に到着するものの、風の影響は少ない。ここから直登ルートを選び、一旦、下り、一気に安達太良山を目指す。登山者も多く去年より人が入っている。去年は誰もいなかった。乳首の前の安達太良山標識で記念撮影を済ませ、乳首を登った。今回も鎖が出ており、安全に登れた。山頂では祠の前で写真を撮り、やはりここに来ると風は強く、下山を開始する。午前山頂付近は、ガスの中であったが、午後から、ガスが切れ時折、青空が見える。下界を覗くと福島市内、郡山市内が一望出来、今年で4年目の冬の安達太良山一番の景色を頂けた。毎年来るとご褒美を頂けるのである。有難い限りである。記念撮影以外は休憩もせず、一気に、くろがね小屋を目指し以外と早く到着した。時計を見ると14:00頃であった。

くろがね小屋で宿泊手配を済ませ、部屋に入る。今年は時間が早かったせいか2階の3号室(角部屋)に入ることが出来た。布団を引き自分の場所を確保した後、温泉に浸かり汗を流した。誰もいない温泉は気持ちの良い物である。入浴後は着替えて、温かいダウン上に身をまとい、夕食の準備を進める。鍋に水を入れ、お湯が沸騰する手前で野菜、豆腐、肉、キムチ、キムチの素を入れ、キムチ鍋の完成である。ビールで乾杯して日本酒に進む。この日のくろがね小屋はNHKの取材チームが入っており、日常のくろがね小屋を撮りまくっていた。20:00前に就寝した。

翌朝はゆっくり起きて、昨夜の残りであるキムチ鍋に火をかけ、くろがね小屋の朝食と一緒に頂く、少し量が多かったせいか平らげるまでには時間を費やしてしまった。他の客は全員、朝食終了でテーブルには我々しか残っていなかった。出発準備をするものの中々進まない。ハミガキ・着替え等を済ませ、ようやく、登山靴を履き、スパッツを付けた時にはNHKメンバー以外誰もいなくなってしまった。全員、本日登頂のため山頂に向かったようである。我々は静まり返った小屋を後にして、一路、スキー場に向かう。昨日と違い少し冷え込んでおり、泥んこの登山道も

凍結しており、靴は汚れることが無く、滑ることを気にしながら下山すると、アツと言う間にスキー場に到着してしまいました。登山靴を脱ぎ車にて、岳温泉にある、ヘルシーパル（宿泊施設）にて日帰り入浴する。人も少なく温泉を独り占めして満喫する。入浴後は、岳温泉にある食堂「駒寄」に立寄り昼食を食べる。去年も食べたソースかつ丼を注文する。私は比、小宮山さんコースモンベルの会員書を見せると特典があると見せると、温泉卵が付いてきた。このソースカツ丼、量が半端なく多い、1.5-2人前はありそうである。二人で一人前が丁度良いかも知れない。私は何とか食べ切ったが、小宮山さんはご飯を2/3残してしまった。満腹となったお腹で往路来た道をそのまま進み、夕方4:00前には自宅に到着した。泥んこになった靴を洗い、登山で着た服も、夕食前には洗濯する事が出来た。今回は軽い雪山と温泉が入れて満足する事が出来た。雪山の季節、温泉に入れることは唯一楽しみの一つである。また、この場所を訪れたいものである。





以上